

2024年（第21回）鹿沼市再発見観光写真コンクール

総評 公益社団法人日本写真家協会会員 審査員長 太田有美子

皆さん、こんにちは。今年は71名の方々から195点の作品が集まりました。審査のためにギャラリーに並べられた写真全体を拝見してプリントがすごくきれいになったと感じました。どの写真もカメラ店の皆様も含め丁寧にプリント手配され準備された結果だと思います。スマートフォンが普及しSNSを通した写真交流が主流のなりつつある今、写真を出力・プリントする機会は減りつつあります。しかしプリントすることはとても実はとても大切なことなのです。まずプリントするためにはまず撮った写真をじっくり見るとと思います。その作業の中で液晶モニターやパソコンの画面では見えなかったもの感じることにつながるのです。

デジタルカメラが普及するにつれてシャッターを押せば何でも写せる時代にもなりました。今回、人物を撮影した写真で本人確認を取らず応募されてこられた方があり、入選を辞退されたことが大変遺憾でした。本人確認とは、まず撮らせてもらっていいですかという許可、そしてコンテストに出すときはその許可が必ず必要です。撮影する前に確認することが難しい場合は撮影した後に声掛けをして、液晶モニターで撮影した写真を相手に見せて、その写真をぜひ相手に送付してほしいと思います。そこで交流が生まれ、会話とコミュニケーションが生まれるのです。写真は貴重な記録です。人と人が交流するツールとして写真を、そしてそういう目的でカメラを使ってほしいのです。昨今、間違ったカメラの使い方、つまり盗撮により事件になるケースもあります。撮影するモラルもカメラの使い方と同時に身につけてほしいです。カメラは道具です。それを使うのは私たち人間です。使い方を間違えると思いかげず相手を傷付けてしまうことがあることを心に留めて、これからも楽しく撮影し町や風景をモチーフとして鹿沼の魅力を再発見してほしいと思います。

1. 推薦 鹿沼市長賞 「強力の裁き」（発光路公民館） 福田英二さん



スチール写真は決定的瞬間を記録することが醍醐味です。この作品はまさにこの強飯式のかけがえのない一瞬を捉えています。手前の人物の両肩に強力ツルギの裁きの「責め棒」が入った、今この瞬間しかないというシーンを確実にカメラに収められています。事前の完璧な調査によりベストポジションに立ち位置を決めてこの瞬間を待っていたのだと思います。強力と山伏を主役に縦位置で撮影し素晴らしい作品になりました。大変貴重な記録になりました。

2. 特選 鹿沼秋まつり実行委員会会長賞 「繰り込み」 (今宮神社) 北崎英信さん



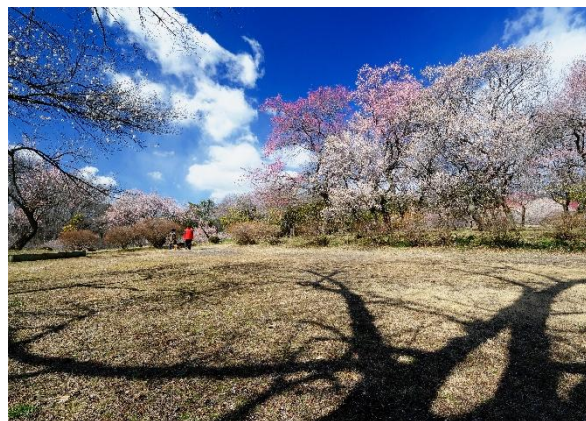
夜のシーンが多く応募される秋祭りですが日中に行われるこの繰り込みの写真はなかなか迫力のあるものでした。屋台の上に乗る若衆を見守る羽織姿の年配の氏子たち、その視線の方向からこちらも一緒に次世代を見守る気持ちとなり、祭りの一体感・臨場感をこの写真から感じ取ることができます。タイトルは自分の感じた気持ちを盛り込むことにより見る人がイメージを膨らませることが可能になります。この場合シーンの説明ではないタイトルにしてほしかったと思います。

3. 特選 鹿沼市観光協会会長賞「楽しい遊園地」(千手山公園) 大塚雅子さん



青い空に満開の桜、素晴らしい晴天の日です。まさにタイトルの「楽しい遊園地」という言葉に全てが集約されていますね。感じたままをストレートにタイトルにしていると心にすっと入ってきます。身近なところにこんな小さな遊園地があるのがまさに再発見ですね。昨年初めて千手山公園を訪れました。その日もご家族連れで賑わっていました。いつまでも見ていたい、平和が永遠に続いてほしいと感じさせられる作品です。

4. 準特選 鹿沼市議会議長賞 「散歩」(栃窪 錦鯉公園) 坂本行司さん



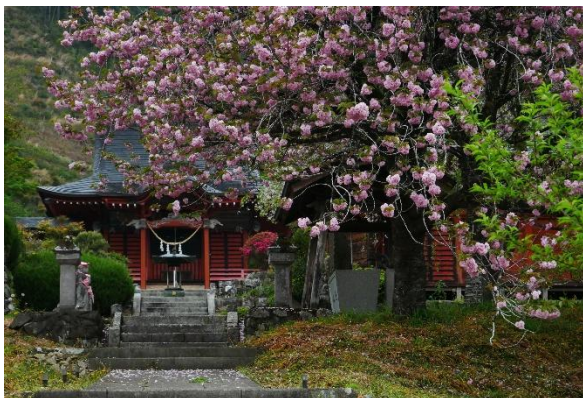
広角のレンズを使い木のシルエットを手前に入れて空と大地をほぼ同じ比率で画面に入れることにより公園の広さと大地を表現しています。また赤い服の散歩人が小さく写っているのが画面の中でとても印象的です。「散歩」というタイトルも頷けます。この場所を一緒に歩きたくなるような爽快感のある写真です。

5. 準特選 鹿沼商工会議所会頭賞 「かぬまシマイ巨大蒸籠」(鹿沼市役所) 堂前勝雄さん



実に美味しそうなシウマイですね……。何かのイベントの日なののでしょうか。覗き込んで見ているこの笑顔の男性の表情がいい、湯気のたち方といい、なかなか狙って撮れる一枚ではないです。撮影者もおそらく美味しそうと思って夢中でシャッターを切っていると思います。かけがえのない一瞬で生活の中でスナップ写真はこう撮るといってお手本のような写真です。

6. 準特選 栗野商工会会長賞 「録事尊の春」(下粕尾 常楽寺) 石川貞明さん



満開の八重桜が録事尊の春を告げています。この木の下に立って空を見上げたくなります。この写真からは静けさを感じますが、お参りをする人物がいても雰囲気的にはいいように思います。仲間がいればモデルになってもらうのもいいでしょう。現場で色々な発想で写真を撮ることはとても大切なことです。この木の下に立って桜を愛でたくなる気持ちにさせてくれる一枚です。

7. 準特選 鹿沼市教育長賞 「古から.田.守る」(北赤塚町) 矢嶋健次さん



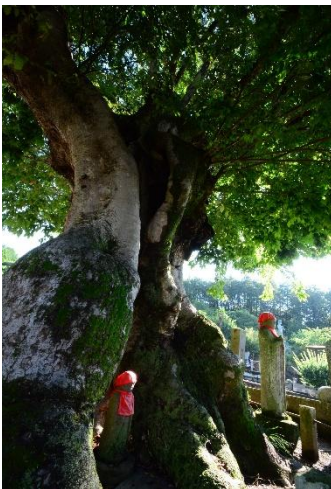
曇天の空の下、全体的に色調がまとまっていて落ち着いて見られ心休まる一枚です。田んぼに写り込んでいる古墳の木々が印象的です。晴天の日の苗代は一般的ですが梅雨の時期にカメラを向けた作者の細かい観察眼にエールを送りたいと思います。桜の木は花はなければ絵にならないという固定概念を外して自分の感じたままに写真を撮るそのスタイルが素晴らしいと思います。タイトルから教育長賞に推薦しました。

8. 準特選 鹿沼市再発見観光写真コンクール審査委員長賞「ズミの息吹」(古峰ヶ原高原) 岩下隼一さん



満開のズミの花、タイトル通り、ズミの木の息吹が感じられます。前日光を訪れたときリングに似たこの花は何だろうと思って地元の方に伺った記憶がこの写真を見たときに蘇ってきました。私の訪れた日は曇天でした。晴天の時にまた行ってみたいと思わせてくれる気分爽快になる一枚です。画面の中で木がいっぱいいっぱいなのでもう一步下がって木の根元と左側に少し余裕があってもよかったと思いま

9. 準特選 栃木県カメラ商組合長賞「神秘のけやき地蔵」(油田町 勝願寺前) 江川清さん



巨木のケヤキの中に鎮座ましますお地蔵様、木の幹のフォルムを生かすアングル、縦位置で木に近づいて撮影されています。お地蔵様を正面から捉える写真は多くありどちらかというとそういう写真は説明的になってしましますが、あくまで主役をケヤキの木に置いた点がこの写真に強いインパクトを与えています。いにしえの時代に思いを馳せる再発見に相応しい一枚です。

10. 準特選 鹿沼ケーブルテレビ賞「花咲く丘」(鹿沼市花木センター) 野川健一さん



昨今地球温暖化の影響で季節のメリハリがつきにくく花が一気に開花するという光景を目にすることができにくくなってきました。この写真はスイセンが一面に咲き、画面奥の青い空、桜の木も満開でまさに春爛漫の時を切り取っています。構図的に安定的に見られる写真でこの場所に立ってみたいくなる、そんな鹿沼の春を感じる一枚です。